

熊本市 地形区分による 液状化発生傾向図

この液状化発生傾向図は、熊本市内において“どのような場所で液状化の発生傾向が強くなるのか”、“それがどこに分布しているか”を示した地図となります。ご家庭や地域で、また、熊本市との対話において、この地図を活用して頂き、液状化に対するリスクを確認するとともに、事前の液状化対策の推進にお役立て下さい。

<液状化発生傾向図の特徴>

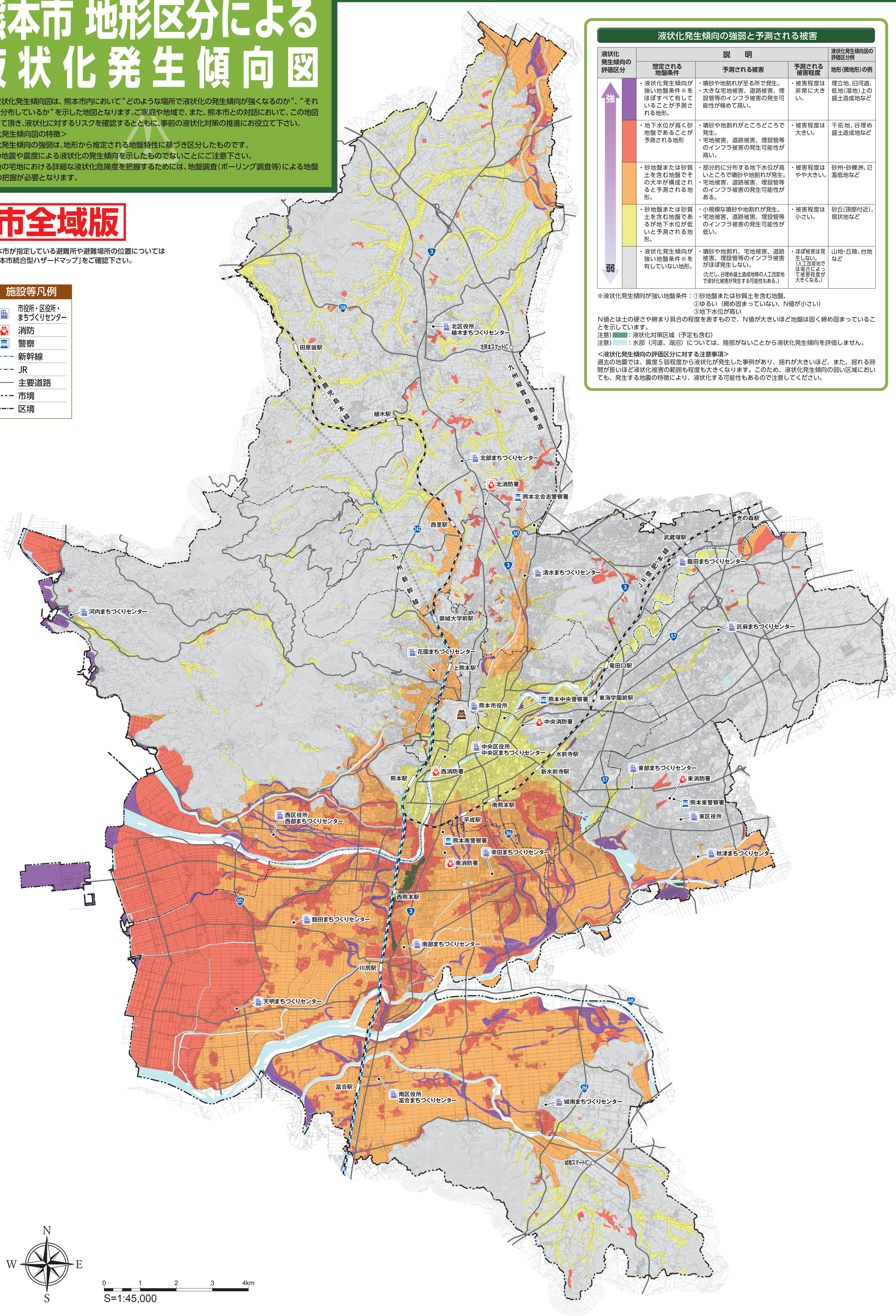
- 液状化発生傾向の強弱は、地形から推定される地盤特性に基づき区分したものです。
- 特定の地震や震度による液状化の発生傾向を示したものでないことにご注意下さい。
- 各宅地の宅地における詳細な液状化危険度を把握するためには、地盤調査（ボーリング調査等）による地盤状況の把握が必要となります。

市全域版

熊本市が指定している避難所や避難場所の位置については「熊本市統合型ハザードマップ」をご確認下さい。

施設等凡例

- 市役所・区役所・まちづくりセンター
- 消防
- 警察
- 新幹線
- JR
- 主要道路
- 市境
- 区境



液状化発生傾向の強弱と予測される被害

液状化発生傾向の評価区分	説 明			液状化発生傾向の評価区分別の例
	想定される地盤条件	予測される被害	予測される被害程度	
強	・液状化発生傾向が強い地盤条件※をほぼすべて有していることが予測される地形。	・噴砂や地割れが至る所で発生。 ・大きな宅地被害、道路被害、埋設管等のインフラ被害の発生可能性が極めて高い。	・被害程度は非常に大きい。	埋立地、旧河道、低地(湿地)上の盛土造成地など
	・地下水位が高く砂地盤であることが予測される地形	・噴砂や地割れがところどころで発生。 ・宅地被害、道路被害、埋設管等のインフラ被害の発生可能性が高い。	・被害程度は大きい。	干拓地、谷埋め盛土造成地など
	・砂地盤または砂質土を含む地盤でその大半が構成されると予測される地形。	・部分的に分布する地下水位が高いところで噴砂や地割れが発生。 ・宅地被害、道路被害、埋設管等のインフラ被害の発生可能性がある。	・被害程度はやや大きい。	砂州・砂礫洲、氾濫低地など
	・砂地盤または砂質土を含む地盤であるが地下水位が低いと予測される地形。	・小規模な噴砂や地割れが発生。 ・宅地被害、道路被害、埋設管等のインフラ被害の発生可能性が低い。	・被害程度は小さい。	砂丘(頂部付近)、扇状地など
弱	・液状化発生傾向が強い地盤条件※を有していない地形。	・噴砂や地割れ、宅地被害、道路被害、埋設管等のインフラ被害がほぼ発生しない。 (ただし、谷埋め盛土造成地等の人工改変地で液状化被害が発生する可能性もある。)	・ほぼ被害は発生しない。 (人工改変地では場合によって被害程度が大きくなる。)	山地・丘陵、台地など

※液状化発生傾向が強い地盤条件：①砂地盤または砂質土を含む地盤、②ゆるい（締め固まっていない、N値が小さい）③地下水位が高い

N値とは土の硬さや締め固まり具合の程度を表すもので、N値が大きいほど地盤は固く締め固まっていることを示しています。

注意) 液状化対策区域（予定も含む）

注意) 水部（河道、湖沼）については、陸部がないことから液状化発生傾向を評価しません。

<液状化発生傾向の評価区分に対する注意事項>

過去の地震では、震度5弱程度から液状化が発生した事例があり、揺れが大きいほど、また、揺れる時間が長いほど液状化被害の範囲も程度も大きくなります。このため、液状化発生傾向の弱い区域においても、発生する地震の特徴により、液状化する可能性もあるので注意してください。